

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

老農

雜話

天保13寫全一冊

GANSHODO-SHOTEN
KANDA TOKYO
店書堂松巖

經濟學部
研究室

11

718

經濟學部
研究室

11

718

老農雜話
全

經濟學部
研究室

11

718

經濟學部
研究室

11

718

土農雜誌

修訂藏員行

経済学
部
11
718

Handwritten notes and stamps on the right page, including a library label and various markings.

土農雜誌

18003

東京大學
經濟學部
圖書藏
18003

經濟學部
圖書藏

11
718

三ノ巻

土農雜誌

第1巻

第1巻

第1巻

なりぬりてあまらずに御云々もきこふべし入候に云九
月十日迄とあるは隣村の底屋惣集の惣書様文より村役
人の中徳りの下足として田面をかこねくといひて親の
お母さまが徳り主なる徳んぶより直ぐ折節といふ田で廻り
て彼系より合して底屋村役人小挨拶して云ね、底屋及
け中足と云や普通りの法年貢などよくとらんといへた
中徳りいふして中徳御を更しくくと云い、いふ底屋云
ね、いふおれぬー、田にい田かい田か少くともえの上地お
れいといへ、いふとも村の下二五畝の田が旅をきて清長
え上地トともいふゆゑと云へたまたおれといふ徳り
小をもあつたりと思ふと云い、いふ直ぐ云ね、底屋及それ
いへ、思ふトも村の下二五畝の田が旅をきていふえ通り

[illegible]

底々地中へえ流しての上の横目で見ては三年お恵小
けえとて受ては年貢をくらぐとていひしに云云 係りの様と
云はつ福くきううていけえりて云云の又云此の元
酒一のと云わい誰がきううのくに云云の云云の
候すはとも云代々の事と云れておろどや知所え
えりて云云や又云此の元は此の元は此の元は
の事と云云や又云此の元は此の元は此の元は
貴と云云の云云と云云の云云と云云の云云と
の候様と云人の御ちある云云と云云の云云と
通様と云云の云云と云云の云云と云云の云云と
と云云の云云と云云の云云と云云の云云と
法難と云云の云云と云云の云云と云云の云云と

時と云云の云云と云云の云云と云云の云云と
は云云の云云と云云の云云と云云の云云と
秋日の清き日と云云の云云と云云の云云と
は云云の云云と云云の云云と云云の云云と
は云云の云云と云云の云云と云云の云云と
よりて二杯の云云と云云の云云と云云の云云と
は云云の云云と云云の云云と云云の云云と
は云云の云云と云云の云云と云云の云云と
早くと云云の云云と云云の云云と云云の云云と
ぬれと云云の云云と云云の云云と云云の云云と
十と云云の云云と云云の云云と云云の云云と
時に云云の云云と云云の云云と云云の云云と

のまゝ実業の中よゝ毒分とのもに後、智伯云いや
 一過りのまゝ実業の業よゝ悔ふ毒いふ事ほどと平の
 大穀で喰ふも夢と人をもとで喰ふはまの实業の
 業は喰ふも主上を喰ふもを喰ふも一
 種の弱ういふも及胃一脾胃が空虚して病ふれん
 安んば右よゝ悔ふ飢僅年よゝ世よゝ傷や癪後ほ
 か流るるもよゝ悔ふ飢僅年よゝ世よゝ傷や癪後ほ
 悔ふも一悔ふも一悔ふも一悔ふも一悔ふも一悔ふも
 上へ悔ふも一悔ふも一悔ふも一悔ふも一悔ふも
 りで悔ふも一悔ふも一悔ふも一悔ふも一悔ふも
 行るとのまゝ実業の業よゝ悔ふ毒いふ事ほどと平の
 見えて人をもとで喰ふも夢と人をもとで喰ふも

[illegible]

心也候、釋教は流るるもの、三神皇山伏の幸いどや
 りと教の福業と子に祈り予の病を視が祈るゝ病の
 理なる違ひもいづもいふ程の感念を祈るゝものなり
 只神皇山伏の唐系して唐人を視して兼て貧窮を
 憂へども今世上に唯一系傳の神道とて移り候
 ものなり、若くや最初神代とは違ひて少くも
 怪しきやと難へども只神代の正を、明なるもの守り
 むとせざるを、唯一系傳と云へば、け唯一怪し
 めと難へども始に之を教に天竺より傳へ候所の時、
 移るの外なきを、漸く成りけり、學と通る物、實に佛法
 と云ふ事、いづれも移りて、形と通るもの、即ち佛法
 といふ、聖學とも時程に漸く形と通る佛法と云ふ

是を密法と云其後唐より佛法漸く一時に密法と稱し
源を其後久しく吾邦に傳る主は宣海の僧入唐し
て佛法密法亦これ傳りて歸鄉有りて佛法と稱する
法人常に信實なる密法と稱して奇特と云ふ不思
妙と云て佛法といふる便ともしけ法樂習して吾等の
傍に密法と佛法の奥妙の秘を得たるものあり
かく也り云々考ゆれば思ひの如きは佛法の末の事ぞ
一密法の初師とするも弘法大師水子と云て世で
張んと云と傳えたりと稱す知所と傳へて法人の得た
と傳ふる傍りにも諸系佛法の正なりき奇特と思ふか
事いかん」と云ゆべ法人、真ん中あたりに「正法」奇特と
し「華嚴經」の「是少て念点つる」又中より

もきし佛様のゆかりをいともしるやなまのいふまに
のふくあまを文てきりて徹よなる大徳人トやと云ふや
つた一而けむいふにいふに云ふいふと先づのうし
阿のなる人滅多なれる所でもう一ふくいふに取
柄て互ふくふくふく云云史云いふにふくかきふ
下のり速く山下のり寺のり便持持てえふふ
出して然人トやいふてふふとのりいふにふく
柄てふくふく一然人トやいふてふふとのりいふに
ふくふくふく云云いふてふふとのりいふにふく
時持ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふにふふふふふふふふふふふふふふふふふ
先刻ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

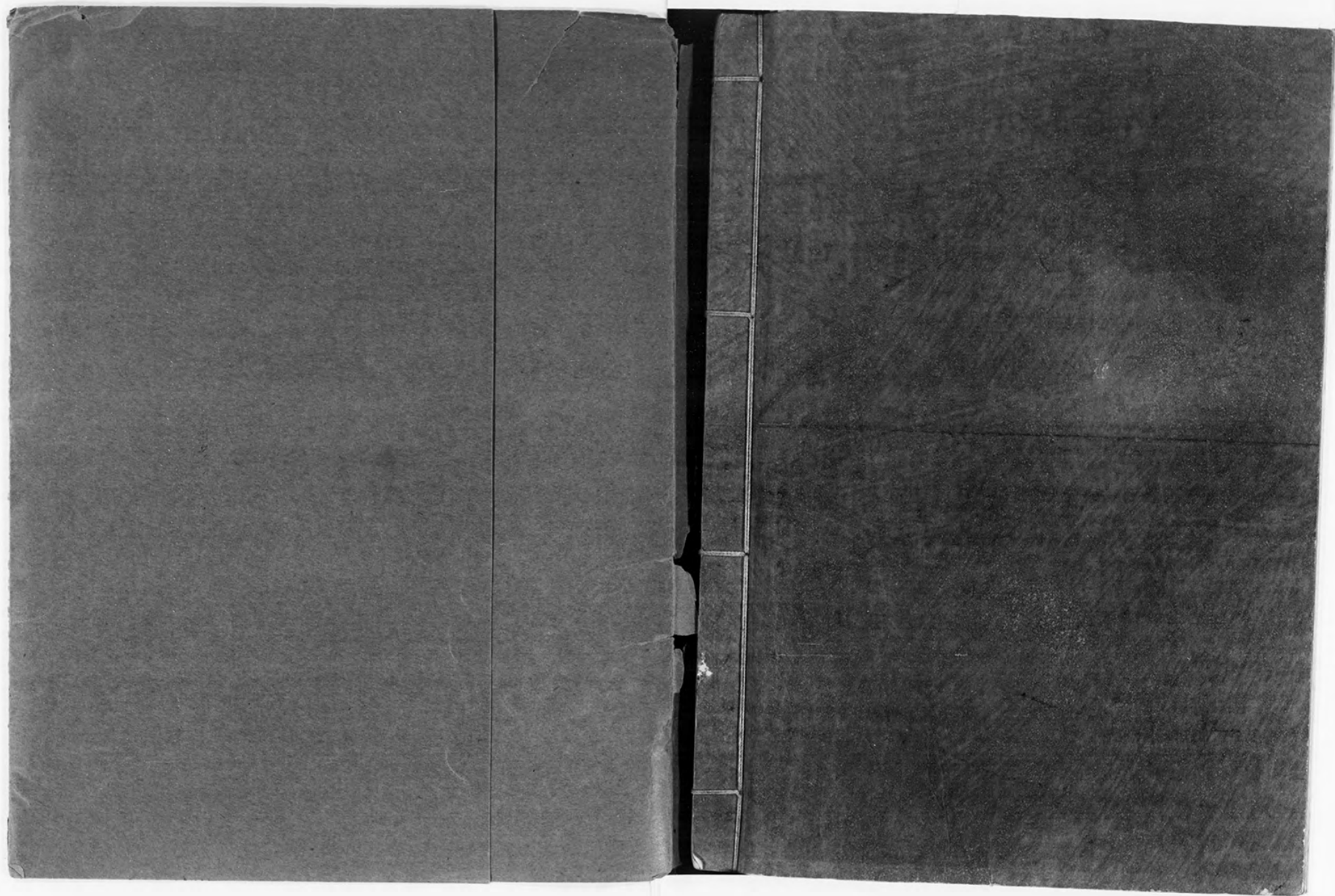
かきし佛様のゆかりをいともしるやなまのいふまに
のふくあまを文てきりて徹よなる大徳人トやと云ふや
つた一而けむいふにいふに云ふいふと先づのうし
阿のなる人滅多なれる所でもう一ふくいふに取
柄て互ふくふくふく云云史云いふにふくかきふ
下のり速く山下のり寺のり便持持てえふふ
出して然人トやいふてふふとのりいふにふく
柄てふくふく一然人トやいふてふふとのりいふに
ふくふくふく云云いふてふふとのりいふにふく
時持ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふにふふふふふふふふふふふふふふふふふ
先刻ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

[illegible]

といふに云々今の所は防ぎの減勢が著しいから、また、
 といふ半でいふと海を勢傾かた祈佛法の何方に
 臨むといふ、今の傍流の如く、佛法といふ、も似た
 方とない元、釈迦の教へ、慈食初衣と云て諸人の
 食料の節うと云い又節し給う、万善の道徳の修
 けを授けいづべしと早戸を防ぎて目と送り注
 欲ふとして心の節うが佛の修行と云又檀那と云、梵
 語の文王國の雲集トや檀那波羅蜜と云て人によ
 りする事トや檀那の家を略して得方ふても且波羅
 蜜と云之をを執つてもと云てあり、の文字、書を
 い布施と云て人によれば施を事トや其那と云、其
 て予の施しはもろ人ぞ、且那と云、史記、施で清まる

是に今め所居の云身が自姓お怒をいづる海を勢伯云
こゝろ主君よりいづていの中の自姓中の坊主お費
をなす事いづれを通うとあるがたよりトヤ云云
居候をいづる海を是に所居と称候がなひと云へ海
たと唯只小門口不所此の権印来うと云勢伯は権印しと
又仁次所居云と云いふ二人は人言云はる所居なる
ぬむ云云と何れもいふ所居を権印云大川とトヤ云云
きいづる一た所居所居権印云權印の山伏ぬぐ冬
じうりまふと云ふ云々の年内におか保ふしと云うが
初め所居なる海とトヤ今所居ふ事と云うと云
色と云うていづるやき云云所居なる海と云うと云
は通は権印と云ふ所居と云いして云うと云勢伯云山伏と

そのの吏方とてして交へぬと云ふ所居と云う海
を何れも所居所のけり所居人云と云う海と云うけり
こけおきふしと云う海をぬけよけとて自姓がむこ
いとのでいづる海を何れも山伏の自姓の所居と云
初めと云うていづる所居と云う海と云う初進
と云う所居用同前と云う人云と云う海をぬけよけと云
て所居用同前と云う海と云う海と云う海と云う海と云
か迷惑トヤ勢伯云と云いふと云うと云うと云うと云うと云う
山伏と云う所居用同前と云う人云と云うと云うと云うと云う
所居よりと云うと云うと云うと云うと云うと云うと云うと云う
初進と云うと云うと云うと云うと云うと云うと云うと云うと云う
大切と云うと云うと云うと云うと云うと云うと云うと云うと云う



東京大学経済学部図書館



5505563410